

Hokuen

北  縁



ぎょ き えいたい し どう
御忌・永代祠堂法要のご案内

6月16日(日) スケジュール

午前 10 時半 ~ 合葬墓前にて法要（合葬墓納骨の精霊様を回向します）
午前 11 時 ~ 講演
昼食休憩（お弁当を用意しております）
午後 1 時 ~ 御忌・永代祠堂法要

「御忌」とは、念仏の元祖・法然上人の忌日法要のことです。与謝蕪村の句に「なには女や京を寒がる御忌詣」とあるように俳句の季語としても用いられています。

法然上人は建暦2年（1212年）1月25日、京都・東山の吉水（現在の知恩院）で往生されました。法然上人のご生涯は、み仏の限りない慈悲の光のなかに生かされ、限りない生命の喜びをかみしめるために、ただ、「南無阿弥陀仏」をととなえよ、と私たちにお勧め下さったことにつきます。上人のみ教え（お念仏の教え）は今も私たちの中、輝いています。

上人のご遺徳をしのんで、全国各地の浄土宗寺院で御忌法要が勤められます。

当山では、6月16日、以下の寺院様ご参列のもと、御忌法要を執り行います。

法性寺（石狩市）	阿弥陀寺（岩見沢市）	天徳寺（江別市）
菩提寺（札幌市北区）	龍雲寺（札幌市北区）	大松寺（札幌市南区）
玄松寺（札幌市南区）	長専寺（札幌市豊平区）	善道寺（札幌市豊平区）
瑞龍寺（石狩市厚田区）	開運寺（札幌市北区）	

御忌法要と合わせまして、昨年永代祠堂を申し込まれた方、そして開山以来の永代祠堂の精霊様 1301 霊（別紙にてご案内しております）をご回向させていただきます。

尚、参詣の皆様には昼食を用意しております。是非ご家族お揃いでお参り下さり、お念仏をととなえ、法然上人の恩徳を讃え、ご先祖様に思いを馳せていただきたく存じます。



総本山 知恩院



大本山 清浄華院

講演
生と死の狭間で
～私の取材手帳から～

合田一道 氏
(作家)

今年は多方面でご活躍の合田一道氏を招き、人生における最大のテーマである“生と死”について氏の長年の取材活動を通してお話をさせていただきます。

生と死の狭間に立たされた時、人間は何を思い、どんな行動を取るか。新聞記者時代に遭遇した三つの事件を取り上げ、その真相に迫る。満蒙開拓団の一家が集団自決前に書いた遺書、雪崩で生き埋めになった大学生が雪に埋もれながら書いた書置、炭鉱爆発の地底で、吹き飛んだ板切れに書いた遺書を示しながら、生とは何か、死とは何かを考える。



合田一道(ごうだ いちどう)

1934(昭和9)年、北海道上砂川町生まれ。北海道新聞記者時代からノンフィクション作品を発表。主な著書は「開拓団壊滅す」「咸臨丸の栄光と悲劇の5000日」(以上北海道新聞)のほか、「裂けた岬」「日本人の死に際」「日本史の現場検証」「人間登場」など。日本放送作家協会北海道支部事務局長、北海道ノンフィクション集団代表など。



大通寺の阿弥陀如来 国指定重要文化財に

前住職・太田隆賢の生家である大阪の大通寺の御本尊・阿弥陀如来立像が、平成25年2月、国の重要文化財に指定されました。

像の高さ96.6cm、髪際（髪の毛の生え際からの）高さ89.5cmのこの阿弥陀如来立像は、平成19年、大阪市の指定文化財となっていました。その際、「平安時代以降、浄土教の隆盛に伴って、阿弥陀如来が来迎する姿をあらわした立像を造仏することが流行した。本像もそのひとつで、一木割矧造による彫眼像である。高い肉髻（頭頂部に一段高く碗形に隆起している部分）穏やかで上品な表情、浅い彫り口の衣文（衣服のひだやしわなどの表現）、浅い体奥は典型的な定朝様（平安時代の仏師・定朝が編み出した優美な様式。長く日本の仏像彫刻の規範とされた）を示す。制作年代は平安時代後期、12世紀と考えられる。表面の漆箔は後補のものだが、当初の形状をよくとどめる。市内に残る優美な平安彫刻の作例である」と評されました。

平成20年1月～3月に解体しての保存修理が行われた際、阿弥陀如来の体幹の内側をえぐった部分に、文書を書いた料紙を転用したものに、阿弥陀如来を判で押した「印仏」が多数納められていることがわかったのです。紙の保存状態も極めて良く、像そのものが解体修理された痕跡がないことから、これらの印仏は納められた当初からそのままであると推測されています。

雲龍山智勝院 大通寺

大通寺は大坂城築城の際に設けられた城南寺町にあります。創建は天正5年（1573年）、徳川家康と懇意で山城国から招聘された然誉上人が開山上人です。しかし、元和元年（1615年）、大坂夏の陣で焼失してしまい、慶安元年（1647年）に現在地に再建されました。大阪大空襲で再び焼失しますが、その際、前住職太田隆賢の母・志づ糸が阿弥陀如来像と永代過去帳を抱いて避難したために、お寺として最も大切なものは守られたとされています。

大阪府天王寺区城南寺町3-19

ホームページ <http://www.daituji.or.jp/>



大通寺 阿弥陀如来立像 像内納入品

阿弥陀如来印仏

大通寺の阿弥陀如来立像とその像内納入品・阿弥陀如来印仏を調査研究したのは、中世歴史博物館である神奈川県立金沢文庫です。中心となって研究を進めた瀬谷貴之学芸員は、印仏について、「納入されていた印仏は全 81 枚紙で、おおよそ 10 紙を基本として上部を紙縫で綴じ、8 括となっていた。そして像内に、右側に 3 括計 30 枚、左側に 5 括計 51 枚を、二つの筒状にして納入していた」と文書に書いています。下記の写真を見ると、如来像の後頭部、前頭部を外した部分から覗ける印仏の筒がわかります。印仏の束を取り出している学芸員の顔に笑みが浮かんでいるように見えます。素晴らしいものに対面できた喜びが自然と表情に現れたのでしょうか。



印仏の大きさは、台座を含めて高さ 4.2 cm、幅 3.2 cm あり、紙の端に「二百四十たい」、「二百三十六たい」、紙縫には「二千二百十四躰 十枚也」などと書かれているそうです。1 枚あたりに押された印仏の数や紙縫で綴じた一括文の印仏の数だと思われ、それらを足すと約 17000 体となるそうです。

瀬谷学芸員は、「阿弥陀如来立像とその像内に納入されている印仏・紙背文書は、平安時代末期から鎌倉時代初期にかけての宮廷周辺における具体的な造仏活動を知ることが出来る貴重な作例と位置づけられる」と評しています。



重要文化財新指定記念にレプリカを作成しました。詳しくは 14 ページをご覧ください。

法然上人と善導大師の出会い

~本当の答えとは他から与えられるものではなく、自らが求め続けていく中に..~

浄土宗のお仏壇には、中央に阿弥陀如来さまをおまつりし、向かって右側には善導大師（613～681）、向かって左側には法然上人（1133～1212）をおむかえします。今回は、法然上人と善導大師の出会いについて触れたいと思います。

法然上人は、鎌倉時代の日本の方。対して、法然上人が師と仰いだ善導大師は、唐の時代の中国の方。お二人は、時間的にも空間的にもへだたりがあります。そんなお二人がどのようにして対面するのでしょうか。法然上人が43歳頃のある夜、次のような夢をみます。

上半身は墨染めの衣で、それより下は金色の一人の僧に会いました。法然上人はこの僧に、手を合わせ頭を低くし、質問しました。

Q1．ここに来られたのはどなたでしょうか？

A1．私は善導です。

Q2．どのようなことでやって来られたのですか？

A2．あなたが専修念仏のことをおっしゃるのが大変貴いからです。

Q3．専修念仏の人はみな往生できるのでしょうか？...

この核心にせまる問いの答えを、善導大師から受け賜らずに、法然上人は夢から覚めてしまいます。

9歳のとき、父から「敵を怨まず、さとの道を求めよ」と遺言された法然上人は、必死にやすらぎの世界を求めました。比叡山にて15歳で出家し、研鑽の日々を積む法然上人でしたが、その道を教えてくれる人もなく、示す仲間もありません、嘆きと悲しみの内に經典にむかう法然上人でした。ところが、暗闇のなかを歩む法然上人を、善導大師の著した『観経疏』の言葉がやわらかな光をもって包みこみました。その言葉は、自己中心的あり方をしている私たちが、いつでもどこでも“南無阿弥陀仏”と声に出してお称えし、心から救われたいと願えば、必ず阿弥陀さまは受け取ってくださるというものでした。この御教えを一生涯実践してゆく人を、「専修念仏の人」といいます。

夢の中で、善導大師が法然上人の最後の質問にお答えにならなかったのは、このような人生の根本的な問いに関する答えとは、他者から与えられて満足するようなものでなく、自身が生涯をかけて求め続けてゆくなか、おのずと体得しえるということをお示しくださっているのかもしれない。

お念仏によって、悲しみが消え去るわけではありません。悲しみを通して、真の喜び・真の幸せというものを見出す機会といただけることが、お念仏のご利益と拝察します。そのことをお念仏の元祖・法然上人の生涯から感じることができるのではないのでしょうか。（文：立花俊輔）



善導大師（身の半ばより金色）



夢の中に善導大師が現れる（雲に乗っているのが善導大師、大河をはさみ合掌しているのが法然上人）

【新善光寺物語】

慈母観音像がやってきた

境内にある慈母観音のお姿を映した石は、青々とした色と変化に富んだ模様の美しさで有名な「伊予青石」と呼ばれる愛媛県西条市名産の石です。西条市を流れる加茂川の河原で発見され、はるばる札幌まで運ばれてきました。どうして新善光寺に届けられたのか、それにはこんなわけがあったのです。



北大職員時代の太田隆賢

前住職・太田隆賢は、旧制上宮中学校、京都の仏教専門学校を経て、東京の大正大学文学部仏教科へ進みました。大学卒業後も研究科に残り、印度・支那仏教の研究を続けました。応召によって一時中断した研究を再開したところへ、大正大学の恩師から「北海道帝国大学に法文学部創設準備に大先輩が行くので手伝ってほしい」との話が舞い込みました。こうして、結婚したばかりの眞佐枝を伴い昭和17年晩秋、学生主事補兼学生課第2係主任として、北大に赴任しました。しかし、初めての北海道での冬を越え生活に慣れる間もなく、再び応召...

終戦後復職すると、厚生輔導課の職務が待っていました。学生寮を作ったり、学生の住む場所を探したりしていたある日、妻と子の三人で暮らす2DKの官舎に、お金もなく、住むところもない学生を一時住まわせることにしたのです。これがきっかけとなり、次々に学生たちの面倒を見ることになりました。総勢5人に及んだ学生たちの中に、後に西条市で病院を開業した真鍋岩太郎さん・知己さん親子がいたのです。

昭和21年、医学部の学生だった知己さんは、仕送りがストップしてしまい、下宿にいられなくなって太田家に来ることになりました。



北大官舎で一緒に暮らした学生たちと（後列中央が隆賢、左が真鍋知己さん）

別れから与えられたおかげさま

こまきね きんしょう
駒木根 琴生



北の大地が春爛漫の美しい五月。私事ですが、子供の日が結婚記念日、母の日を終えた十六日が私の誕生日、そして二十六日が長男が自ら西方浄土へ旅立った日である。あと一週間で十四歳になる夕方だった。

お釈迦様の教えに四苦八苦があり、生老病死しょうろうびょうしに加え、愛する者と分かれなければならない愛別離苦あいべつりくがある。死は誰にでも等しくやってくる。従って、皆様も多くの別れに接して溢れる涙を超えてきたに違いない。七十二歳の私も例外でなく、両親や兄妹などの肉親の外にも、親友の別れも続いた。よく昔より、子に先立たれる程大きな苦はないと云われている通り、言葉で言い尽くせぬ歲月だった。

息子は春休みになると一人旅をしていた「鉄ちゃん」だった。小学一年の祖母宅への釧路の旅をきっかけに小学三年には津軽海峡を渡り道外に広がった。中でも小学六年の九州一周は快挙だった。小学校卒業式に出発した先は東京より千キロ離れた小笠原諸島で、世界遺産に指定された今と異なり、当時（昭和五十三年）は、貨物船で四十時間の船旅だった。彼には、中国シルクロード訪問という膨大な夢があった。中国語を学び始め、又小学五年より夕刊配達を始めその目標に向かってははずである。机の中には配達で貯めた二十二万円があった。

死の現実を受け入れないまま、「なぜ？」と問いつつ、亡き息子との同行の旅に夢中だった。旅先でお世話になった人達から息子の楽しそうな笑顔を聞ける事は、支え切れない母の重荷が軽くなる瞬間だった。果たさなかったシルクロードも完全踏破できた。供養の為の四国遍路や全国寺院巡りも随分実行した。

これなどの行いを法然上人は「諸行・雑行しよぎょう ぞうぎょう（念仏以外の行）は阿弥陀仏の関係を遠きにするものなり」と案じていたが、お念仏から離れなかったお陰様はお寺との関わりだった。

ある日、月参りの我が家で「南無阿弥陀仏」と、私はお称えすることができるようになった。長い月日、阿弥陀仏は見捨てず見守り続けていたに違いない。

その後、佛教大学で浄土学を学び終えて、平成十二年、太田住職様の弟子となり僧となった。今では極楽浄土で息子と再会できる「同一蓮」を楽しみにしている。蓮の花の台を用意して待っていると信じている。その為にも阿弥陀仏の本願他力を仰いで、臨終のその日迄、お念仏を申し続けなければならない。

生きてゆくことの隣に別れがある。それでも残された人間には別れから与えられた阿弥陀仏の「おかげさま」を受け止めて生きてゆける強さがある。

春になれば 必ず花は咲くものを 只まかせばや南無阿弥陀佛

慈啓会から

“地域包括支援センター”の仕事とは

受託法人：社会福祉法人 札幌慈啓会 札幌市中央区第2包括支援センター
センター長 道林 松美

「腰や膝が痛くなり、家の中の掃除が出来なくて困っているからだれかに手伝ってほしい」

「杖をつけて歩くようになり、荷物を持って歩けない。だから、一人で買い物へ行けなくて困っている」

「冬の間自宅にいる時間が多かったので、すっかり足が弱ってしまった。季節もよくなったので、足腰を鍛えに運動に通いたいので紹介してほしい」など...いろいろな相談がセンターには日々沢山入ってきます。時にはご本人・ご家族以外のご近所の人から...

「この頃歩いている姿を見なくなった。子供さんも近くにいないようだからどんな風に生活しているか心配だ」

「隣の家から怒鳴り声がある。隣には年老いた女性が息子さんと住んでいる。もし、暴力など振るわれていたら大変なので連絡した」といった相談も入ります。

私たちのセンターは平成18年4月に誕生以来、中央区内にお住まいで生活する上で困っていることを抱えているご高齢者やそのご家族の方々、時にはご近所の住人からもさまざまな相談を受けてまいりました。

このように、生活をする中で抱えている困りごとを、電話で相談を開始することが多いのですが、時にはご自宅に訪問してお話を伺わせていただきます。「どんなことに困っていて、どうしたらその困っていることが少しでも改善されて暮らしやすくなるのか」を一緒に考え、そのための福祉制度や介護保険制度の情報等を提供して、解決する方法を準備するのをお手伝いしております。その他、公的なサービス以外に住民同志の支え合い、ボランティアの利用といったインフォーマルな資源も活用しながら、住み慣れた家や地域でできるだけ長く生活ができるように支援させていただきます。そして、心身の変化に応じて、必要なサービスを継続的に利用できるように調整していきます。

私どもはこのようにして、地域にお住まいのご高齢者が生活を継続していけるように、区役所とも連携を図り、受託法人内の窓口からも協力を得ながら、地域の住民の方々とともに支えていくことができるように日々活動しております。

現在、当法人内には2つのセンターがありますが、何か心配な事や困ったことがありましたら、遠慮なくお問い合わせください。お話を伺わせていただきます。



中央区第2地域包括支援センター
〒064-0941 中) 旭ヶ丘5丁目6-51
011-520-3668 fax 011-561-8300



中央区第3地域包括支援センター
〒064-0941 中) 南17条西8丁目2-23
011-205-0537 fax 011-205-0538

《 宮の沢別院から 》

宮の沢別院新納骨堂「蓮華堂」建立のおしらせ

この度宮の沢別院におきまして新納骨堂「蓮華堂」を建立することとなりました。
昨今の社会状況を鑑みて、より檀信徒の皆様のニーズに合わせた「選択できる納骨堂」を目指すというコンセプトのもと「ご遺骨2霊収蔵」型の納骨堂としてお盆頃の完成を予定しております。

新納骨堂「蓮華堂」詳細

既存の納骨堂とは違う現代風デザイン

平成 25 年 7 月末完成予定

納骨壇タイプ



- ・ 3 段型片開き式
- ・ ご遺骨収蔵数 2 霊
- ・ 総数 60 基

詳しくは同封のチラシをご覧ください。

詳しい内容につきましては宮の沢別院寺務所又は新善光寺本院までお問い合わせください。
又、従来型の納骨堂も見学・申込等受け付けております。

担当 主管 太田 光顯
本院 TEL 511-0262
別院 TEL 668-5110

email : miyanosawabetsuin@globe.ocn.ne.jp

毎月 8 日は吞龍どんりゅうさまの日

毎月 8 日は「吞龍さまの日」と称して、13 時より定例法要を行っております。
どなたでもご自由にお参りください。(駐車場約 30 台駐車できます)
又、各種祈願ご希望の方は、寺務所にてお申込下さい。
(注：8 月のみお盆期間中の為お休みとなります。)



吞龍さまの日の様子



年頭祈願法要の様子

行事案内

7/25(木) 13時	慈母観音供養会
8/ 1(木)~15(木)	お盆経参り (7月下旬に皆様にお盆案内を発送します) 期間中は本堂を公開しております。是非お参りください。
8/16(金)	盂蘭盆大施餓鬼会法要
9/23(月)	秋彼岸大施餓鬼会法要
10月中	婦人会秋のレクリエーション
11/ 3(日)	十夜法要

行事予定はWEB上からでもご覧できます。「新善光寺」で検索して下さい。

是非ご参加下さい

慈母観音供養会

7月25日(木) 13時より

札幌100秘境の一つに選ばれ、TVで取り上げられたこともあります。天然石に自然に浮き出てきた観音様に水を向けてご供養します。参加は無料です。この機会に見てみませんか？



しろいし幼稚園から

大きく育つほとけのこ

4月22日(月)にしろいし幼稚園の年長組の園児89名が参拝に訪れました。

当日は住職のお話があり、そして本堂や骨仏などお寺の中を巡りました。しろいし幼稚園では仏さまの教えを通して「心の教育」の原点である 生命尊重の保育 を行い、多くのほとけのこどもを育てております。



シリーズ 仏事のおはなし

お勤めのはなし

前回までは、お仏壇のお話をさせて頂きました。お仏壇を準備し、日々のお給仕を行って頂いた次には、信徒として仏様に対してお勤めを行わなくてはなりません。今回からはこの「お勤め」に観点を置いてお話していきたいと思います。

世界三大宗教はキリスト教、イスラム教、そして仏教の三つの宗教のことを指します。キリスト教徒に「聖書」、イスラム教徒に「クルアーン(コーラン)」があるように仏教徒には「経典」という聖典があります。経典とは俗に「お経」と呼ばれるものです。我々僧侶が檀家さんのお宅でよく聞かれる質問の中に、「うちの宗派は、どのお経をあげればよいのですか?」という質問がありますが、そもそも、経典・お経とはどんなものなのでしょうか。

「お経」は仏教の開祖、お釈迦様のお言葉です。それを「経典・仏典」と呼びますが、その数は膨大な量になります。「八万四千(仏教で非常に数の多い事を表現する言葉)の法門」と呼ばれるほどにお釈迦様はたくさんの教義をお説きになっています。そんな膨大な量の経典から、各宗派の祖師たちが自分たちの最も依るべき教義を選びとっているのが、各宗派の「お経」なのです。

文化庁の資料によると、現在日本には仏教系各宗派は150を超える数が存在します。それらでは「所依経典(教義の依り所となる経典)」というものがあり、日々のお勤めはその所依経典より抜粋してお称えするというのが一般的です。それぞれの宗派には「勤行法」と呼ばれるお経の読み方、お作法などが定められています。経典はそもそも昔のインドの言葉で語られたものですが、日本では漢語に訳されたものを使用しています。よって、漢字の読み方(呉音・漢音)または読み癖など、各宗派によって異なってくるのです。さらには節を付けた読み方など、様々な勤行法があります。お作法は読経する際に調子をとるなどの目的で鳴らす鈴や木魚、仏様に対しての「礼拝」方法などがあります。

さて、では皆さんのお宅ではどんな「お経」をあげたらよいのでしょうか。浄土宗の所依経典は「浄土三部経」というお経になります。これは「仏説無量寿経」



鈴(りん)



木魚(もくぎょ)



伏鉦(ふせがね)

「仏説観無量寿経」「仏説阿彌陀経」という三つの經典のことです。これら三つのお経の内容は、なかなか一言では説明できませんが、簡単に言いますと、「無量寿経」は法蔵菩薩が阿彌陀仏と成るために行った修行時代の衆生救済の本願（ねがい）と、その願が成就してからの利益が述べられています。また、「観無量寿経」はお釈迦様が弟子阿難尊者に、王舎城の悲劇を通して極楽浄土に往生する方途を説いています。

そして、「阿彌陀経」は、阿彌陀仏が創られた極楽世界という浄土の様相と、六方（東西南北上下方の世界）の諸仏がその素晴らしさに対し、讃嘆・証誠する様が説かれています。それぞれはそれなりに長いお経ですので、中から抜粋して日々のお勤めの中で読みます。

さて、前回まではお仏壇のはなしでした。その中で「鳴らし物」と呼ばれる仏具のお話はしませんでした。浄土宗信徒の家ではお勤めのために、一般的に「鈴」「木魚」の2つの仏具を揃えます。

稀に「伏鉦」と呼ばれる仏具を準備されているお宅もあります。鈴は作法で定められた箇所を打ち、木魚や伏鉦はお念仏の調子をとるために打ちます。

では、実際に具体的にどんな形で勤めていくのか。それは次回からお話しましょう。

アンケートはがきのお願い

皆様のご意見を広くかがい、
今後の寺報発行ならびに寺院運営の
参考とさせていただきますので、
ぜひご意見ご感想等をお聞かせください。
ご記入いただきましたら、切り取り線より切り離し、
ポストに投函ください。

キリトリ線

郵便はがき

0 6 4 8 7 9 0

料金受取人払郵便



差出有効期間

(切手不要)

キリトリ線

新善光寺
行

札幌市中央区南六条西二丁目一

投稿のお礼とご報告

前回の22号から、皆様のご意見などを頂く為、本誌に投稿用のハガキを綴じ込みさせていただいています。いろいろなご意見ご要望、またはご質問など頂きました。全ての掲載は難しいのですが、以下のような投稿を頂きました。

- ・浄土宗の主要な教義・日常のちょっとした事柄でわかる教えなど解説してほしい。
- ・仏と神について、その違い、諸外国での宗教事情について知りたい。
- ・お寺の職員（僧侶）のお名前など知りたい。
- ・連載の表題の表現がおかしい。また、本誌にそぐわない内容の記事があるので等々

紙面や構成の関係上、すぐに投稿で頂いたご要望や質問などにお答えすることは難しい部分もありますが、現在連載しているものの中や、新たにコーナーをつくることも含め、対応を考えていきたいと思えます。編集側としましても、興味をもって読んでいただいていることに感謝し、また内容についてご指摘いただきましたことを真摯に受け、今後の「北縁」を発行していきたいと思えます。誠にありがとうございました。また今号についてもご意見をお聞かせください。

キリトリ線

Q1．今回の寺報全体の感想はいかがでしたか。

- ・大変良かった
- ・良かった
- ・普通
- ・つまらなかった
- ・大変つまらなかった

Q2．面白かった(興味深かった)記事があればお教え下さい。

Q3．つまらなかった(読みにくかった)記事があればお教え下さい。

Q4．こんな記事が読みたいなど寺報に関する意見・要望などをお書き下さい。(お寺に対する意見等でもかまいません。)

差し支えなければお名前をお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

レプリカ進呈します

5ページで紹介いたしました大通寺阿弥陀如来印仏のレプリカができました。

6月16日の法要に参詣の方全員に進呈いたします。又、お参りに来られない方でもご希望の方がいらっしゃいましたらお電話・メールにて受け付けております。



額装した一例

キリトリ線

永代供養墓のご紹介 心は極楽に 身はここに

境内の北側にひときわ目立つ配色、形の建造物があります。「北向地蔵尊」が奉安されている「宝塔」です。今回はこの「宝塔」を皆さんに改めてご紹介します。

当山の「宝塔」は「永代供養合葬墓」になっています。これは個々のご供養の継承が困難になった方の代わりに、お寺で供養を行い、合祀の状態^{ごうし}で遺骨^{いこつ}を永代にわたり収蔵^{しゅうざう}するお墓です。

「宝塔」とは仏様を奉るための仏塔、また仏教の墓の形として用いられた建造様式です。当山の宝塔は、地下部分が合祀墓になっています。供養の継承が難しい方や、この新善光寺の境内地に埋葬を望む方など、現在約100霊位^{しょうらい}の精霊様が眠っています。

昨今では永代供養・合葬墓という形も一般的に知られるようになり、従来の供養やお骨の管理の在り方から、この宝塔を選択肢としてお考えになる檀信徒の方も増えてきました。

奉安^{ほうあん}されている「北向地蔵尊」の「北向」とは、本来ご本尊などが「南面北座」という基本に沿って鎮座・安置されるのが一般的ではありますが、この決まり事の逆が「北向」ということになります。これは、奉られている仏様が「お地蔵様^{じぞうぼさつ}（地蔵菩薩）」であるというのが理由です。

古来より上座が南を向き、下座は北を向くという決まりがあります。当然仏様は我々人間より上位にある方々なので、南向きに座するというのが一般的です。しかし、地蔵菩薩は「六道一切衆生を済度する仏様」です。常に我々衆生と共にあるということから、あえて下座である北向きにお奉りしているのです。

当山では、この慈悲心深き「地蔵菩薩」のもとに安置を希望される方、またはご先祖様の安置を希望される方のご相談を随時行っております。

※御相談はお電話、メール等で承っております。

電話 011(511)0262 メール s-zenkoj@crux.ocn.ne.jp

時間 9:00～17:00

※来寺されて御相談される方は、事前にご連絡ください。



永代祠堂法要 毎年6月第3日曜日 厳修^{ごんしゅう}

冥加料^{みょうがりょう}（納骨時に納めて頂くお布施です）

永代祠堂志納金 1霊位 20万円

合葬墓納骨料 1霊位 5万円

（当山の納骨堂からの移葬の場合は1
霊位2万円となります。）



職員を紹介します

前回のアンケートはがき、またお参りに伺った際に檀家様から職員の名前を知りたいという要望がありましたので改めて名前をつけ加えて掲載します。詳しい個人の経歴・プロフィール等につきましては次号から紹介したいと思っております。



前列左より 野崎幸史 太田真海 副住職) 太田真琴 住職) 太田光顯 別院主管) 松尾一志
後列左より 石川亨信 宗川信章 堀内和紀 立花俊輔 石山祐道

東京別院・霊源寺より

品川区にある霊源寺は新善光寺住職が兼務しており、春・秋彼岸には法要も行なっております。東京近郊でご供養（お葬式・納骨・法事など）をお考えの方はご連絡下さい。



編集後記

リニューアルしてから一年、毎回ギリギリの締め切りでなかなか思うようにいかないものです。さて、今年のゴールデンウィークを皆様はどのように過ごされましたか？私は今号でも特集されている大阪大通寺で「五重」という法会を手伝いに行ってきました。ちょうど阿弥陀様が東京国立博物館で展示されていたので本尊は近隣寺院から借りていました。6月16日の法要ではその阿弥陀様について大通寺の住職から少し説明があります。

次号は10月発行の予定です。それまでは随時お寺のホームページ上で情報を更新していきます。

新善光寺

(海)